

友愛医療センター

症例番号②

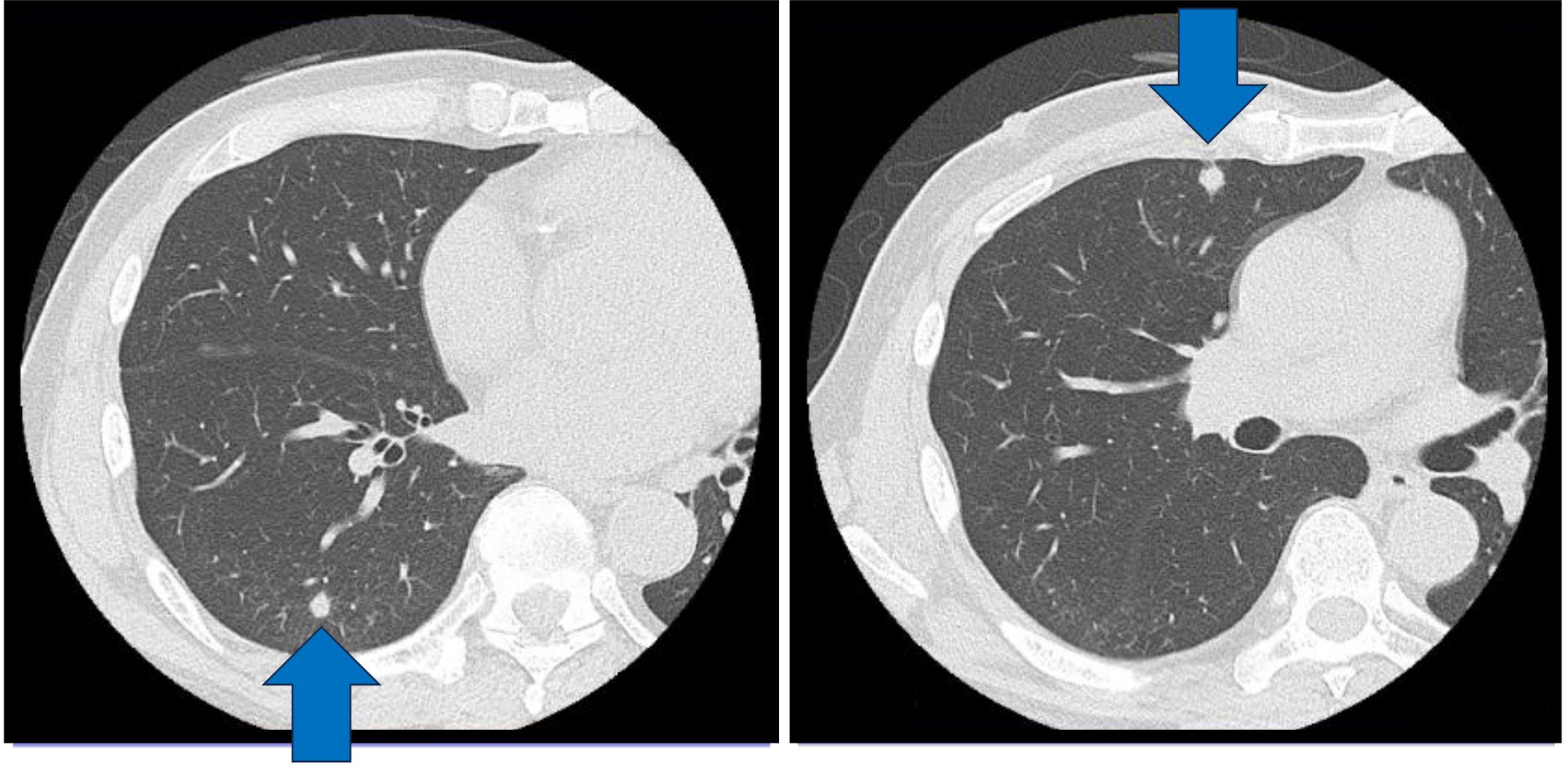
採取検体 : 右肺腫瘍

年齢・性別 : 60代・男性

臨床経過 : 半年前右外腸骨静脈腫瘍に対して切除術が施行され、術後のCTにて多発肺結節を指摘された。肺結節摘出時の腫瘍捺印細胞診を提示する。

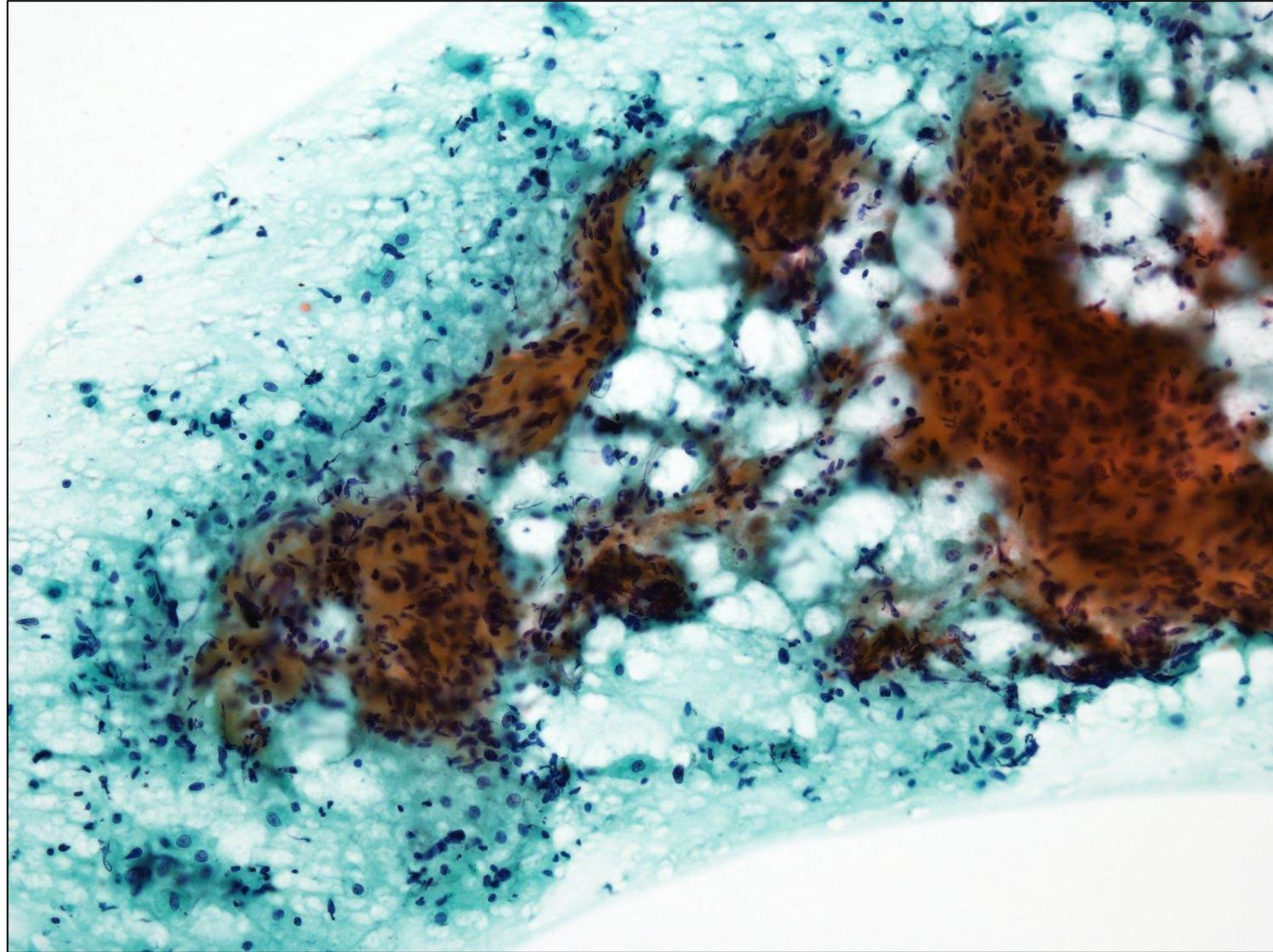
標本作製方法 : 腫瘍捺印法

CT所見



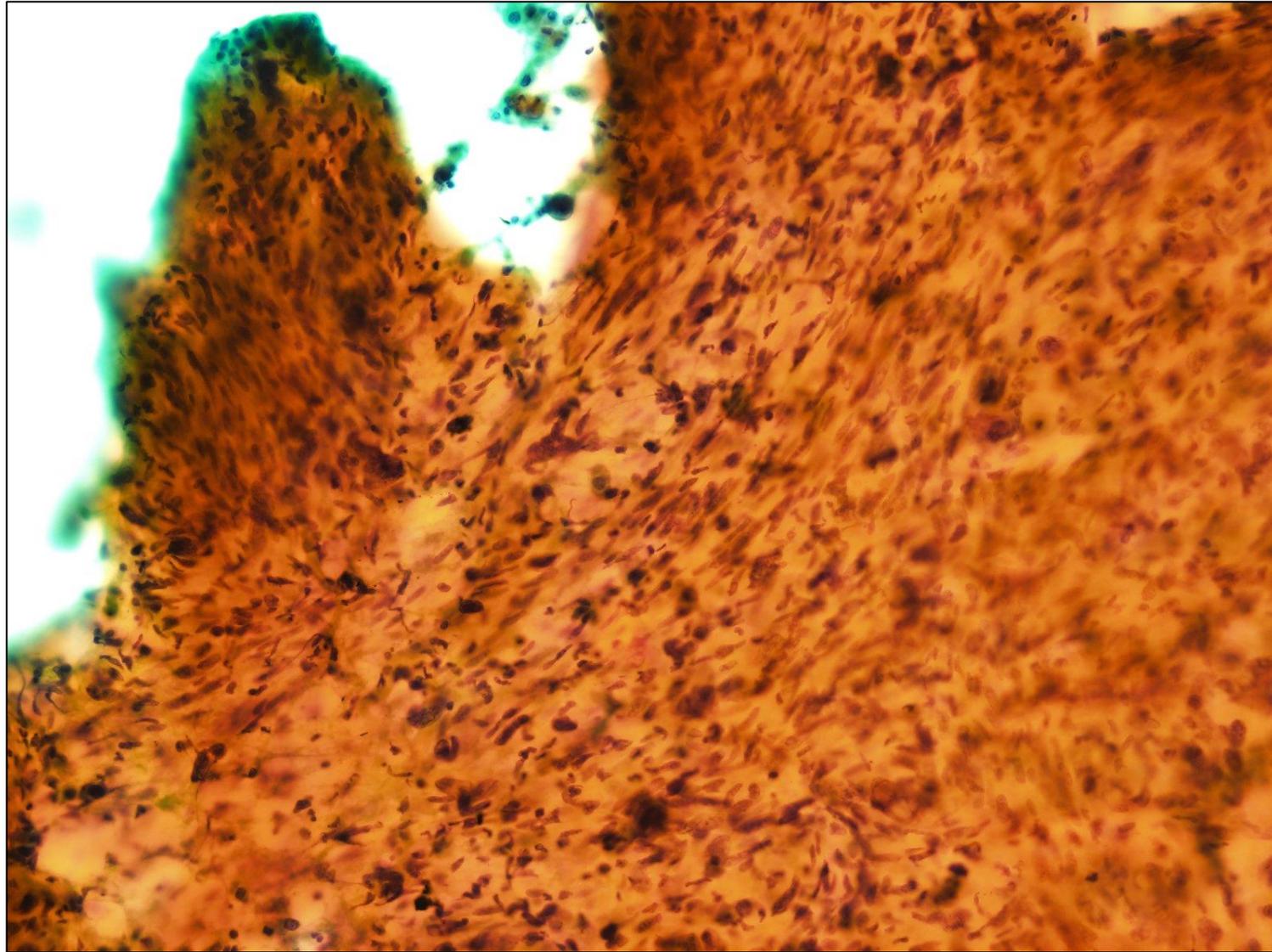
右肺に最大径8mm大の境界明瞭で平滑な結節を多数認めた。

細胞診所見 (pap. × 20)



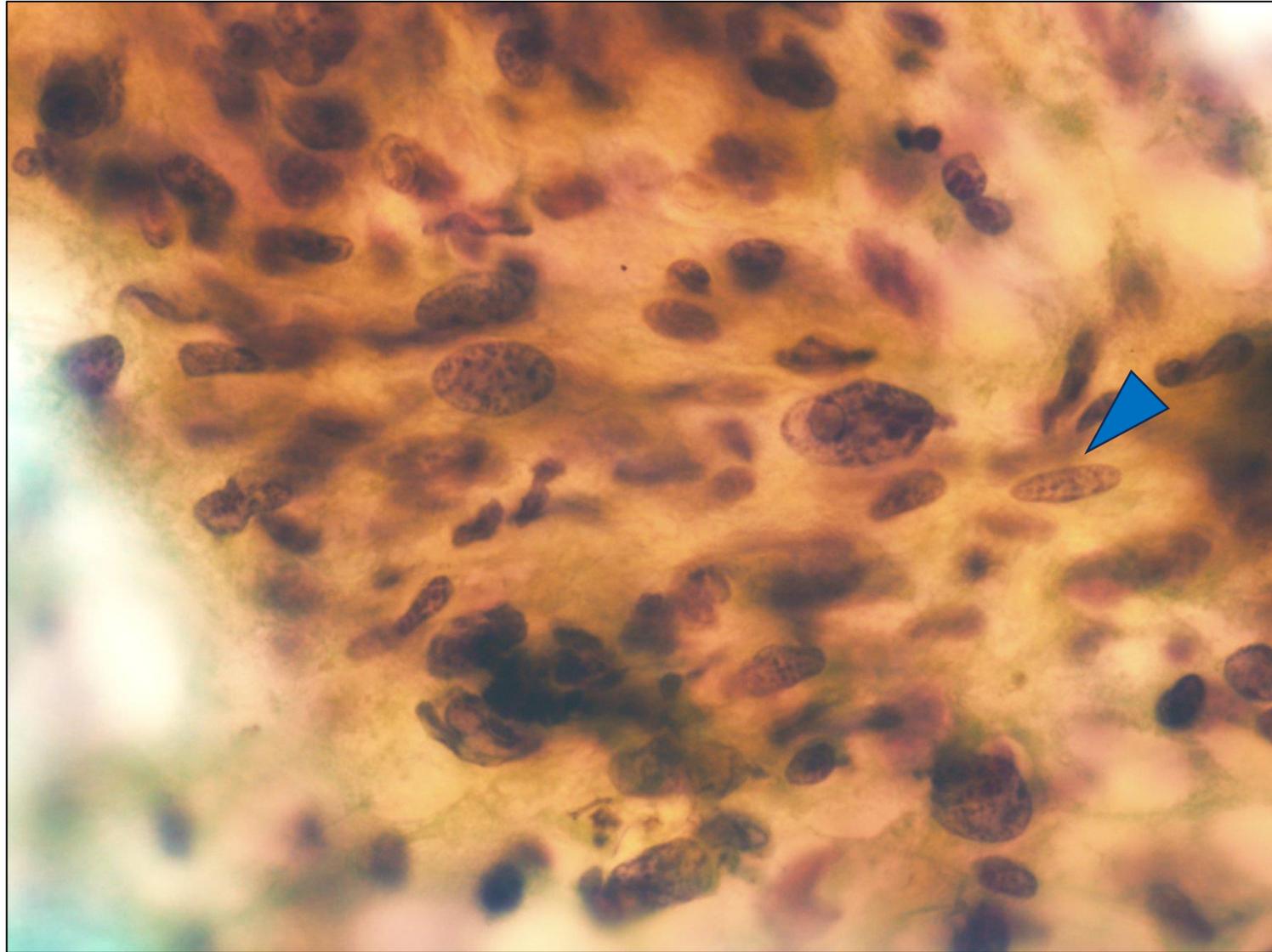
炎症細胞を含む血性背景に大型の細胞集塊を認めた。

細胞診所見 (pap. × 20)



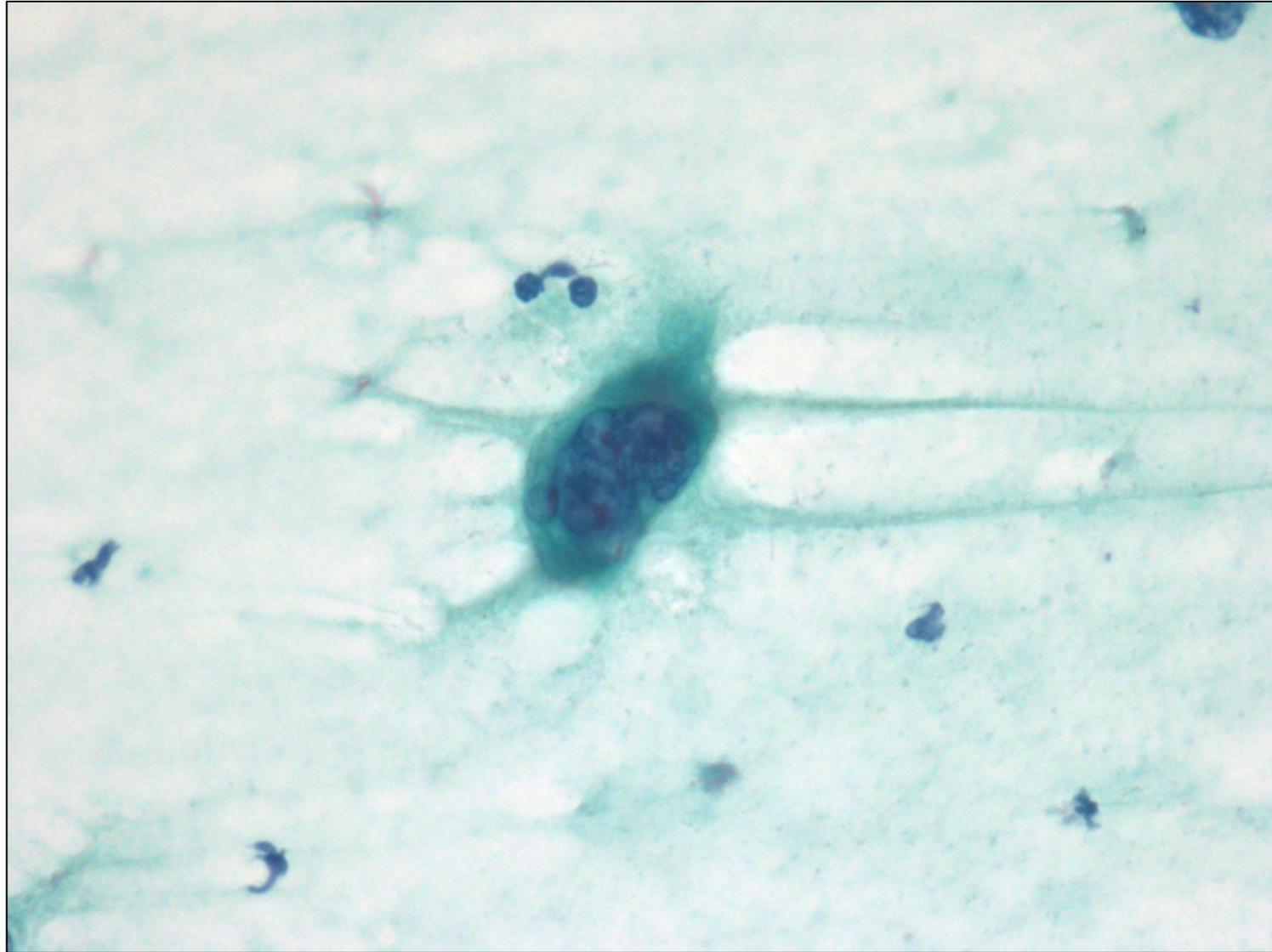
集塊は紡錘形細胞から構成された。

細胞診所見 (pap. × 100)



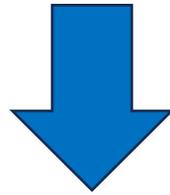
核は葉巻状 (▲)、極性の乱れ、核クロマチンの増量を示した。

細胞診所見 (pap. × 100)



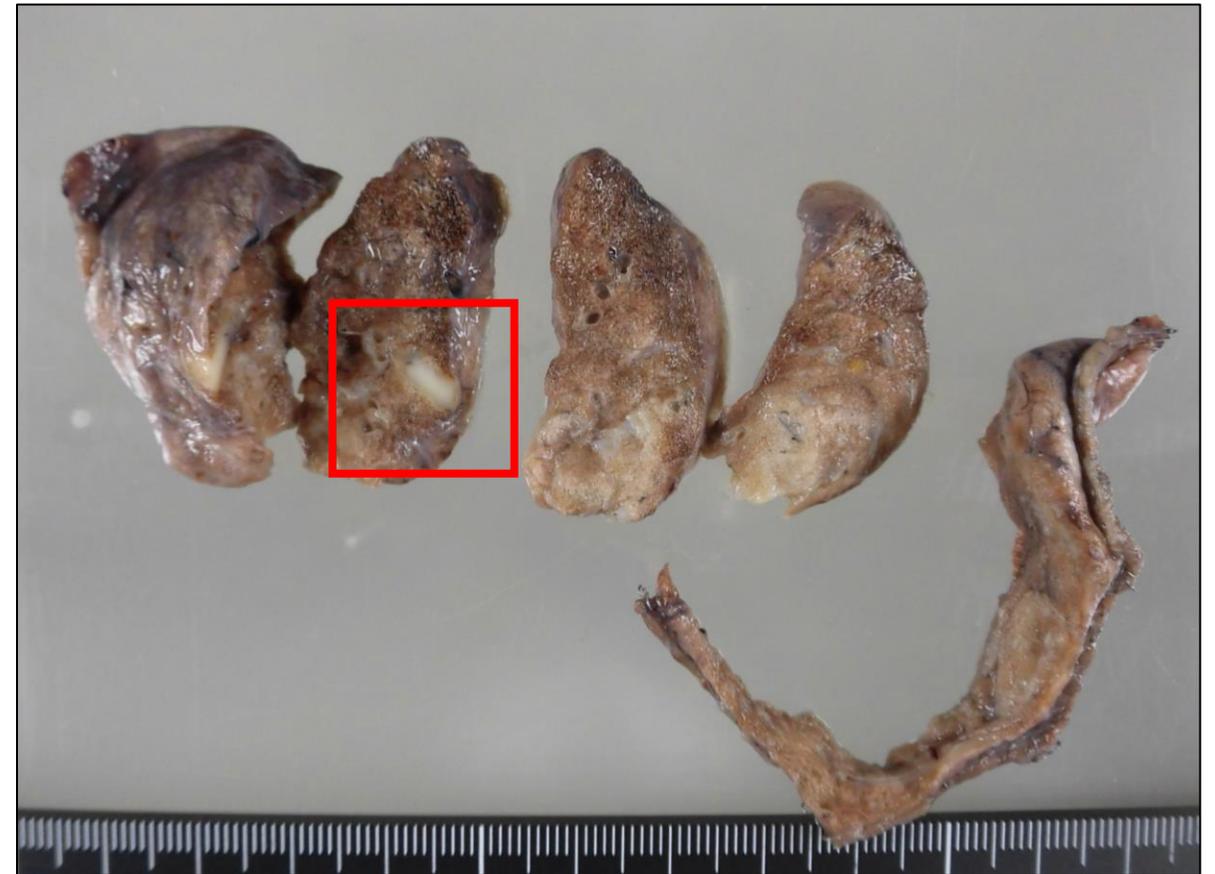
多形核を有する細胞が孤立散在性に散見された。

- 非上皮性の異型細胞が集塊状に出現した。
- 多形細胞を孤立散在性に認めた。



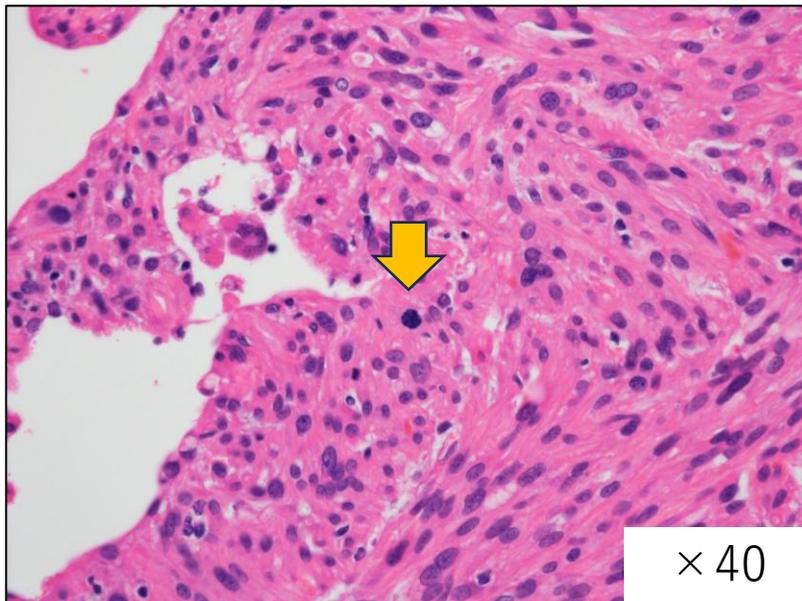
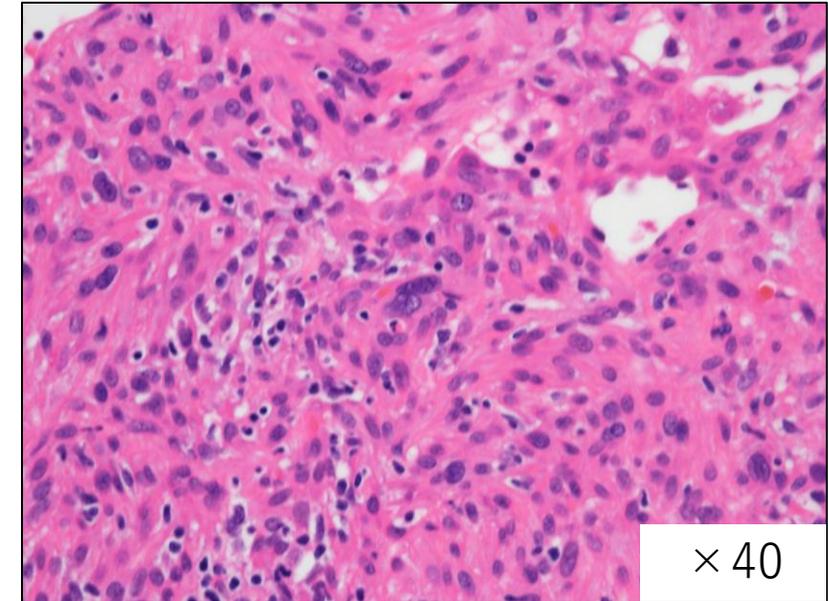
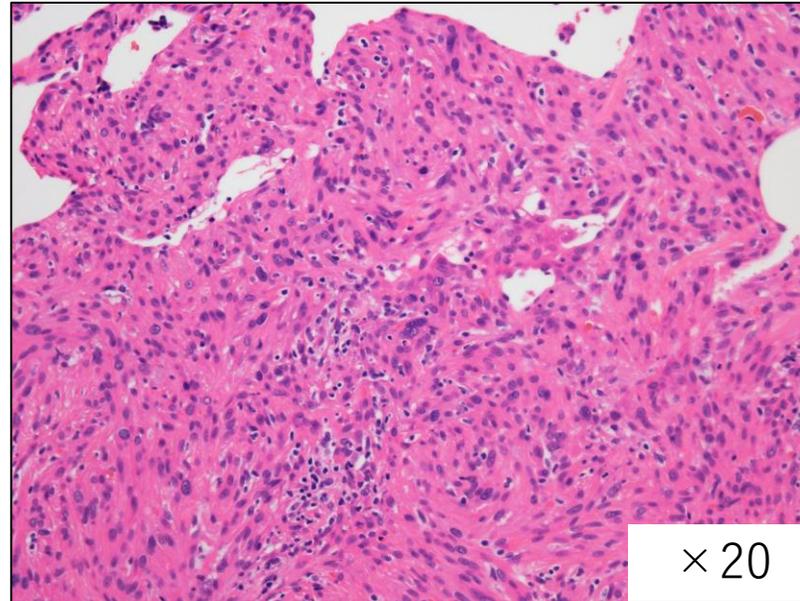
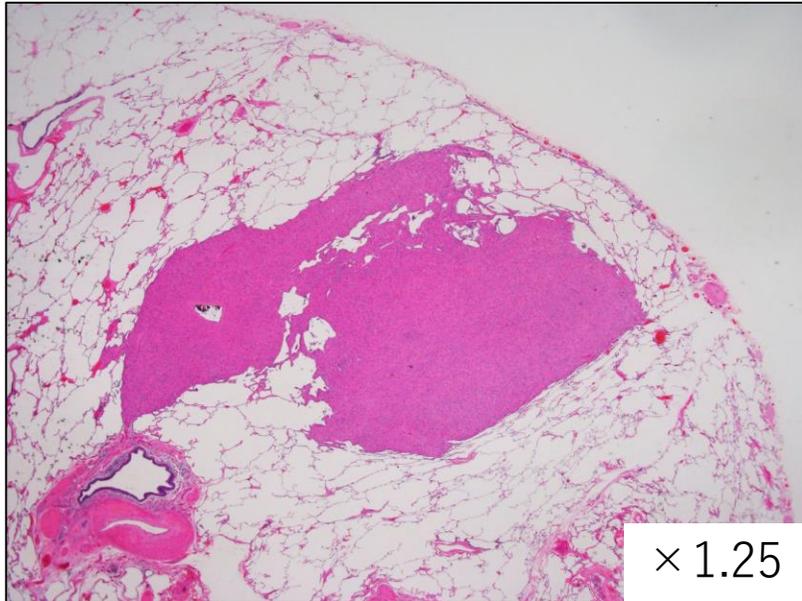
1. 扁平上皮癌
2. 腺癌
3. 大細胞神経内分泌癌
- 4. 肉腫**

肉眼像



摘出された腫瘍は白色調で8mm大であった。

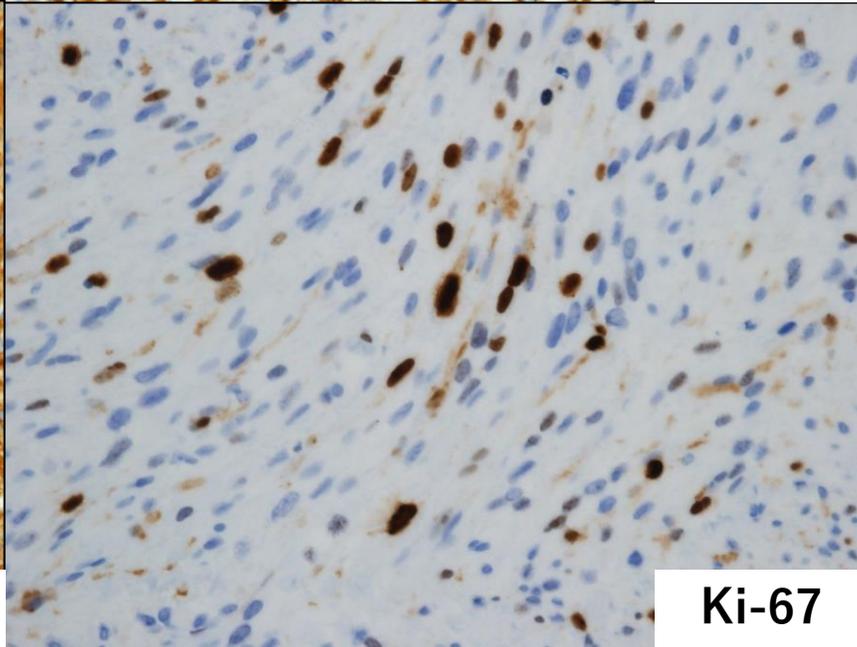
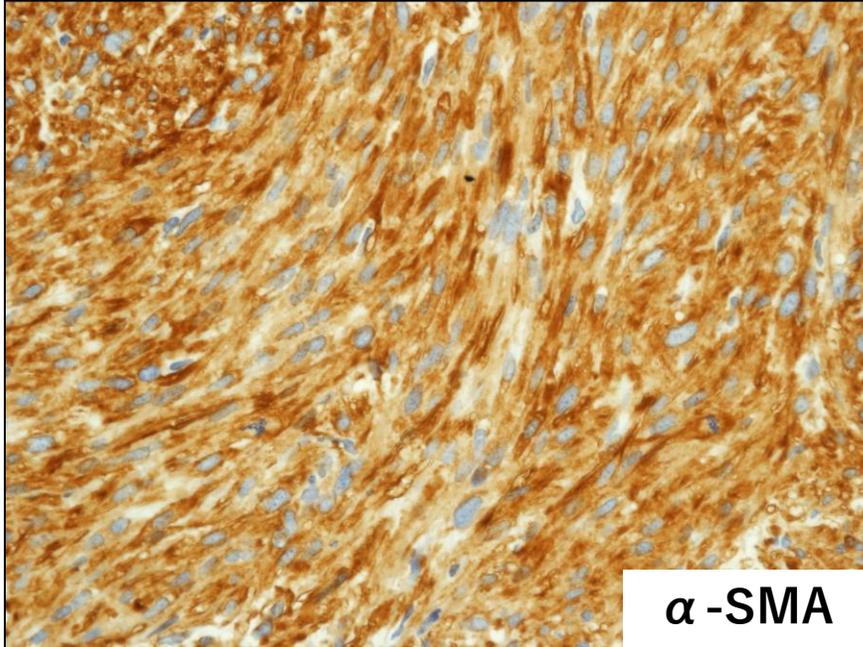
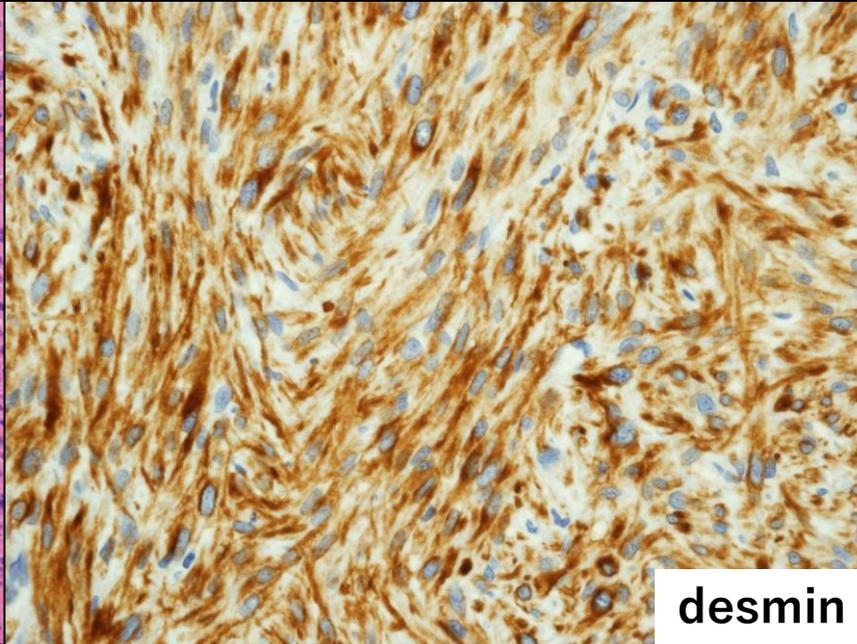
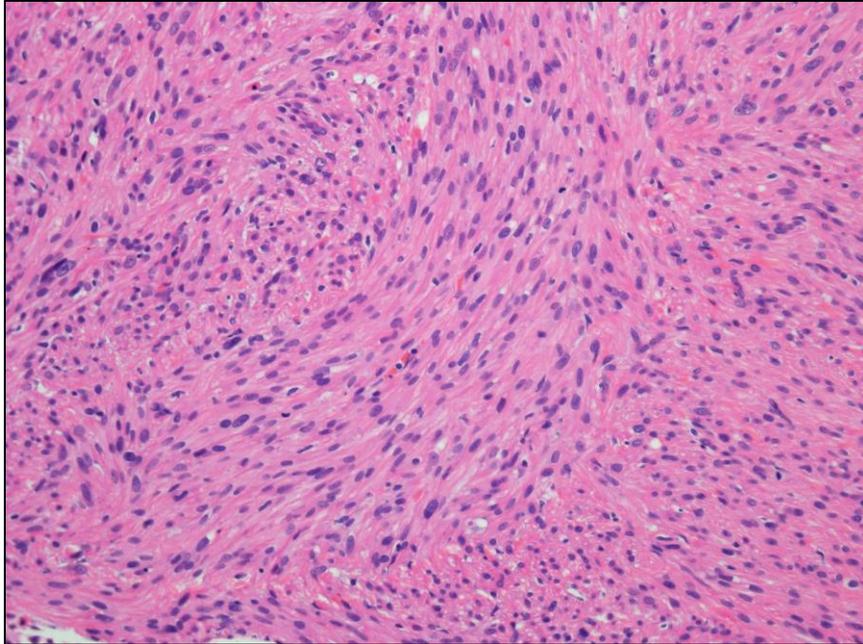
組織像



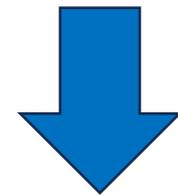
腫瘍は圧排性に増生しており、
紡錘形核と好酸性の胞体を有する
腫瘍細胞から構成された。

核異型や核分裂像(矢印)も認められた。

組織像 (×40)



desmin (+)
α-SMA (+)
Ki-67 陽性率10%以上



【診断】
平滑筋肉腫の転移
(右外腸骨静脈原発平滑筋肉腫)

平滑筋肉腫とは

- 平滑筋への分化を有する悪性腫瘍である。
- **高齢者の後腹膜**や**四肢深部**に好発する。
- 血管壁原発平滑筋肉腫では**肺**や**肝臓**に転移することが多い。
- 多発肺結節病変を呈する平滑筋肉腫のほとんどは**転移性**と報告されている。
- 平滑筋腫との細胞学的鑑別は難しい。

平滑筋肉腫と平滑筋腫の鑑別

鑑別点	平滑筋腫	平滑筋肉腫
採取細胞量	少ない	多い
孤在性細胞	目立たない	目立つ
出現形態	集塊	孤立散在性～集塊
核形	紡錘形	両端が鈍角な「葉巻状核」

- ・平滑筋肉腫では**多形細胞**が混在する症例がある。
- 上記の所見に注目し、悪性が考えられる場合には
鑑別に挙げることが重要である。

青笹等：細胞診鑑別アトラス，医歯薬出版，333-334，2021

松本等：希少がんと細胞診1 軟部肉腫，武藤化学出版，41-42，2018